知を再武装した賢者たち

{人生100年時代の冒険}

Vol.3

ライフシフト編

イノベーションを実現するMBA

TAMA GRADUATE SCHOOL OF BUSINESS

多摩大学大学院

人生100年時代を どう生きるのか。

人は変わる。
人生は変えられる。
働き方だっていろいろあっていい。

人生をどう描くのか。
組織や上司が描くのではない。
自らイメージしているか。
本当に自力で描いているのか。

いつだってキャンバスは新しくできるんだ。
ワークスタイルだって自分でデザインしていい。
いや、すべきなのかもしれない。

いま、組織の看板を取り払った自分を見つめてみる。
複数の異なる企業や組織で同時に働くことだってあり得る。

そんな自分を深く見つめ、
大海原に飛び出た仲間たちを紹介しよう。
ときに彼らは異端児に見えたかもしれない。
無謀な冒険者として映ったかもしれない。
しかし、彼らの表情は活き活きしている。
いい顔をしているんだ。

賢者 片岡裕司

Philosopher Yuji Kataoka

サラリーマンから キャリア論教授へ。 5枚の名刺を持つ片岡氏に インタビュー。

Q, 現在の片岡さんの状況をご紹介ください。

勤めていた企業を多摩大学大学院（TGS）在学中に辞め起業し、2017年で無事10期を迎えることが出来ました。同時期に人事コンサルティング会社の立ち上げにも合流。さらにこの10年で曽祖父の代からの家業も徐々に引き継いでいるところです。また、2018年4月より母校TGSにて、大学院生向け講義を担当させていただくことになりました。テーマは、「キャリアマネジメントとモチベーション」です。

Q, 複数の仕事を同時進行する際の バランスのとり方やメリットデメリットは？

世間では副業解禁の議論が進みだしていますが、まだまだ発展途上の段階です。そんな時代に5つもの企業に関わるのは常識外であり、一定程度の「批判」があることは仕方のないことと受け止めています。ですがメリットも沢山あります。多様な視点から企業が見られることや、様々な専門家とのネットワークも増えてきます。「ひとつの文化や考え方に染まらずに生きていける」というのが一番のメリットです。

Q, 仕事人生において辛かった経験などあれば 教えてください。

これまでのキャリアで、残念ながら3人の大事な仲間を失うという、とても辛い経験をしました。とてもつらい出来事ではありましたが、この経験から私の生き方の根源となる問題意識や取り組むべき課題に気付くことができました。その問題意識は2つあり、1つ目は「人は幸せになるために働くはずなのに、なぜ、働くことで不幸になる人がこんなにも沢山いるのか？」ということ。2つ目は、「組織は社会であり、関わる人をより良くしていくために存在するはずなのに、なぜ、多くの人が組織によって追い込まれるのか？」というものでした。これらの問題解決は、彼らが与えてくれた“使命”である、と今は思っています。

Q, 多摩大学大学院（TGS）への入学や ライフシフトのきっかけは？

TGS入学前にはキャリアに悩んでいました。会社で上を目指す、転職する、家業を継ぐ、起業する・・・。ただ悩んでいても意味がないので、どのケースを選択しても能力は必要ということで、学びの投資をすることに決めました。実は最初はグロービスに通っていたのですが、途中からTGSに切り替えました。グロービスでのケーススタディとフレームワーク中心の講義はゲーム感覚で面白く、また過去のケースにはその後の歴史が示した一定程度の答えが存在するといった分かりや易さもありました。ただ冷静に考えてみれば、過去のケースから作られたフレームワークは過去のケースであれば適応性が高いことは自明の理ですし、この変化の激しい時代に成功法則の使い回しには限界があると感じました。もっと本質的なことを掘り下げ、自分で新たなフレームワークを生み出せるような力を付けたいと感じ、TGSに入学することにしました。

Q, TGSの学びにおいて、 ご自分での気づきなどはありましたか？

TGSでは学びの内容もそうですが、先生方、また志を同じく学ぶ仲間との出会いが一番の刺激でした。それまでの自分の常識では何かキャリアの選択をしなければならないと焦っていましたが、すべてにチャレンジしてみるという選択肢があることに気付くことができました。当初、起業はリスクも大きく選択肢としての優先度は高くなかったのですが、最終的にはその選択肢を選ぶことになりました。

Q, TGSの先生方はいかがでしたか？

先生方の中には、大企業を務め上げた方、起業されている方、またベンチャー企業を立ち上げマネジメントをされている方など様々な働き方、価値観をお持ちの方々がいらっしゃいました。そんな先生方とフラットな立場で話す機会を通じて、自分自身が共感する働き方にも気付くことが出来ました。また、複数の組織の垣根を超えて働くインデペンデントコントラクター的に働くことについて、当初考えていたリスクもコントロールできることを教えて頂きました。ある先生に起業するという話を相談したら、半年間待って、あることを試すようにご教示いただいたその半年間が私の助走期間としてとても重要な期間となりました。結果として何の迷いもなく一歩を踏み出すことができたのです。

Q, 最後にひとことお願いします。

リンダグラットンは著書「ライフシフト」の中で3つの無形資産の重要性を説いています。仕事のスキルや知識等の生産性資産。健康な体に代表される活力資産。そして多様な対人ネットワーク等の変身資産です。深夜の飲み過ぎで活力資産は低下するかもしれませんが、TGSはこれら無形資産すべてが高まる稀有な場だと思っています。

片岡 裕司（かたおか ゆうじ）

多摩大学大学院経営情報学研究科21期修了
組織コンサルタント、マネジメントの実践者。
アサヒビール株式会社、同社関連会社でコンサルティング業務に従事し、TGS在学２年目に独立。（株）ジェイフィールに設立段階から参画し、現在は取締役コンサルタント。コンサル業務と並行して、家業のマネジメントにも奔走中。現在5枚の名刺を持つ。著書に「ベテラン」社員がイキイキ動き出すマネジメント」、「週イチ・３０分の習慣でよみがえる職場」（共に日本経済新聞出版社）

賢者 楠田幸久

Philosopher Yukihisa Kusuda

理論物理学専攻技術者から経営学大学教授へのライフシフト。ビジネスとは無関係な世界の住人がなぜ経営大学院での学びに至ったのか。

楠田氏は関西学院大学大学院を卒業後、製造業に就職。技術者としての人生を始めた。基礎技術研究へのこだわりから30歳にして初めての転職を決意。企業の研究所に転職後、次から次に湧き出てくるアイデアの実現に夢中になり、国際会議での発表を毎年のように重ねた。博士号を取得したのもこの頃。その成果もあり、多くの顧客から賛同を得て事業化を開始することになる。技術職としての立場から、営業、生産、品質保証等を幅広く担当するポジションへと、一気に職務が拡大した。
40歳半ばになると、氏が開発した製品とともに事業部に移動。事業部の全製品を統括する立場になる。この時の衝撃的な光景が楠田氏の今後の人生に影響することになる。そこで見たのは、生産拠点の中国への移管により業務縮小し疲弊する生産現場の姿だった。技術開発の経験しかなかった楠田氏は悩んだ。どうしたら良いのか。会社の方針に従うしかないのか。本当にこの方法しかないのか。苦悩の日々が続いた。

苦悩が続く日々のなか決断。多摩大学大学院（TGS）入学。

答えを出せないままの無力感と焦りから経営大学院に入ることを思い立った。直ちに多摩大学大学院の門をたたいた。50歳一歩手前、49歳の決断だった。
大学院の二年間は厳しくも楽しい時間だった。大量の本を読み、議論する。土日なく学ぶことで、経営・ビジネスの考え方、時代の流れを理解し学んだことを自分の仕事に適用してみる。授業では異業種の頭脳の視点考え方を教わることも多い。TGSでの学びが深まるにつれ「今、社会では何が起こっているのか。これからどうなっていくのか」。といったことが、見えるようになった。
気づいてみれば、自分の課題に対する答えは極めて当たり前のことだった。「流れは変えられない、その流れの先をよんで一歩先の手を考え実行すること」。これを腹落ちし納得するまでに、もがく時間が必要であったのだ。

多摩大学大学院 経営情報学研究科修了。MBA取得後の展開。

TGSでの学びを持ち帰った会社では、その後戦略を転換し新規事業を売却。氏の製品も他社に売却されることになった。今までは自分が外に送り出す側、しかしこの瞬間から自分が出される側に変わったのだ。この機会をむしろチャンスと捉え事業移管を推進、さらに自らも製品とともに会社を移る決断をした。移った先の企業では氏が開発した製品がすべての主力商品に搭載され、この大きな成果に対して社内および関係学会から数々の賞を受賞した。

舞い込んできた母校TGSでの活躍の機会とさらなる飛躍。

そういった機会を得て、多摩大学大学院にて客員教授として技術・事業・グローバルのイノベーションを担当するという縁も舞い込んできた。さらに海外の会社の技術指導等も行うことで、日本の経営と海外の経営の違いを現場で目の当たりにするようになった。
2017年、楠田氏は「人体の３D画像入力」という新規分野のベンチャーに参画を決断。その技術戦略・経営戦略に腕をふるうことにした。これにもTGSで得た考え方が生きている。
「人生100年時代。まだまだ若造です」と謙遜する楠田氏は今60代。自ら経験を踏まえ、大きく変化する新しい分野への挑戦。そしてそれを学生の諸君にも熱く伝え、共に成長し歩んでいく。ライフシフトを遂げ突っ走る楠田氏の新しいステージの人生は、今まさに始まったばかりなのかもしれない。

楠田 幸久（くすだ ゆきひさ）

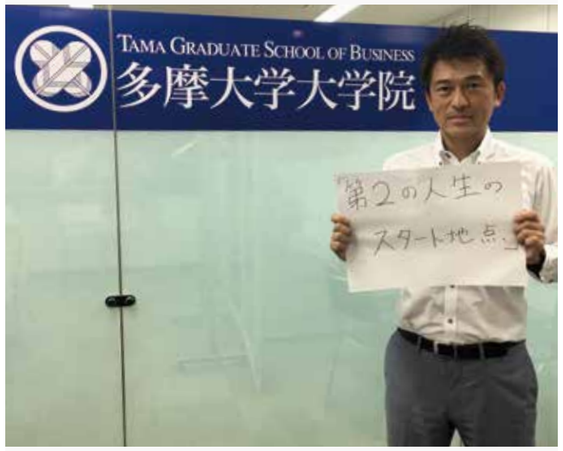
多摩大学大学院21期修了
1955年生まれ。関西学院大学大学院終了後、大手電機メーカ、素材メーカ、電子機器メーカを経験。TGSにてMBA取得後2010年より多摩大学大学院客員教授就任（グローバル技術経営）、2017年より新規ベンチャー企業に参画している。

賢者 小林等

Philosopher Hitoshi Kobayashi

人生の折り返し地点、40歳を前に新たなチャレンジをしたい。

40歳の時点で新たなチャレンジをするためには、それまでに自分のやりたいことを見つけ出し、同時に高いスキルを身につけておかなければいけないと思い大学院での学びを決意しました。漠然と「社会にイノベーションを起こす人」になりたいという夢は持っていたものの、自分の考えの甘さと能力の低さを痛感させられ、逃げたいと思う自分も正直そこにいました。大学院に入学したのは36歳。自分は何のために生きているのか、何のために働いているのか、何を成し遂げたいのか、まさにこの多摩大学大学院（TGS）で自問自答の日々が始まりました。入学した初日に、新しい世界が目の前に広がっていることが実感できました。「不安」が「希望」に変わった瞬間でもあります。



これまでの小林等

(株)JTBに入社時から11年間法人営業を経験。社内の新規事業公募制度で新規事業が採択され、同時に本社の事業開発室へ異動しました。これまで営業しかやっていなかったので、いきなり新規事業開発と言えど、大海原を小舟で進む自分がいました。その小舟には「社会にイノベーションを起こしたい想い」しか乗っていなく、彷徨いながら突き進んでいました。同じ部署で隣に座っていたMBAホルダーの尊敬する先輩に助言をいただきながら開発を進めていました。ある時、その先輩を目標にしたい、今後は後輩が憧れる人になりたいと考えるようになり、MBAの取得の道を考えました。

仕事と大学院、そして地域の活動とのトライアングル

仕事のミッションを進めながら、夜と休日は大学院の学び。さらに地域でのスポーツ指導。私の自宅は神奈川県の二宮町で、職場は品川区なので片道100分。通勤圏内だったことは、この大学院を選んだ理由の一つです。またこのハードな生活を乗り越えることができたのは、小さな達成感があったからです。マーケティングや事業創造、データサイエンスなどの授業で学んだことを仕事や地域の活動で実践できること、また仕事と地域の活動の課題を、大学院のゼミでディスカッションし、院生からアドバイスをもらい、解決策に繋げることができ、小さな達成感を何度も体感することができました。そこには、自分を頼りにしてくれる周囲の存在があり、そこに人の役に立つ・社会の役に立つ実感がありました。

一生涯、学生である。学び生きていく。

現在、仕事の新規事業もミドルステージへ移行となり、スケール化に向けて事業展開を進行中です。また、論文のテーマ「神奈川県二宮町における地域密着型スポーツクラブの設立と地域活性化の考察」が現実のものとなり、その実践活動も今年で2年目。行政にとって欠かせないクラブへと成長し、町民に愛されるクラブへと成りつつあります。
仕事と社会貢献。2枚目の名刺を持ちながら自分自身の存在価値を高めていっております。

小林 等（こばやし ひとし）

多摩大学大学院
経営情報学研究科41期修了
1979年生まれ。福島県出身。現在は神奈川県二宮町在住。（株）JTBで法人営業を11年経験。社内の新規事業公募制度で採択され、キャリア教育事業室を設立。プライベートでは、2016年（TGS在学中）に地域密着型の総合型地域スポーツクラブを設立。クラブ設立をきっかけに二宮町の地域活性に従事している。趣味は、フットサル指導と英語の勉強。

賢者 小森谷浩志

Philosopher Hiroshi Komoriya

会社勤務からのライフシフト。営業→飲食ビジネスの経営コンサルタント→起業→組織開発コンサルタントの傍、大学でも教鞭をとる。

会社勤務から起業。現在では組織開発コンサルタントの傍、大学でも教鞭をとるに至った経緯を伺いました。

Q, ライフシフトを遂げてきた小森谷さんにとって、これまでに節目となるような出来事は？

2001年4月に大きな節目となる出来事がありました。アサヒビールとニッカウヰスキーの営業統合、当時業績が悪化の一途を辿っていたニッカウヰスキーが、大株主であり親会社のアサヒビールに“救ってもらう”ことになったのです。売り上げが凋落し続ける中、酒販店や飲食店を専門的にサポートするコンサルティング部門を作る提言を過去三年連続でしていましたが、ことごとく却下され続けていました。ところが、この提言が営業統合を機に日の目を見ることになったのです。

Q, 営業統合が絶好の機会になりましたが、この後のポジションに変化は？

はい。「アサヒビールでも君と同じようなことを考えていて、コンサルティング会社を立ち上げる。そちらに行くか」という打診が来たのです。もともと自分がやりたかったこと、即答でコンサルティング会社への異動を決断します。そして、これまでの営業からコンサルタントへと大きくキャリアを変えることになりました。

Q, まさに水を得た魚状態ですが、コンサルタントとして途中なにごともなく順調だったのでしょうか？

いいえ。営業統合を機に営業からコンサルタントにポジションが変わったあと、1年もしないうちに壁に打ち当たることになりました。数々の課題に取り組む中で、「自分が、本当にクライアントの方々に役に立てているのか」という疑問が頭から離れませんでした。トータル的に経営について学び直したいと考え始めていたのがちょうどこの頃、2003年の秋でした。さっそく多摩大学大学院（TGS）の説明会に参加し、以前から著作を通じて触れていた田坂広志先生の模擬講義を受講、その場で受験を決意したのです。

Q, TGSに入学され、大学院生としての生活は？

TGSでの講義内容はもちろんですが、仲間とのディスカッションなど全てが楽しくて仕方なかったです。完全に学びのスイッチが入りました。先生方々は、沢山の知見とともに、良質な書籍を数々ご紹介くださいました。興味が湧く書籍を買い集め、とにかく読み漁りました。月の書籍代は10万円を越え、実践的な学びが深まります。教授に勧められ学会報告もその後8年間続けることになります。学会では新たな先生との邂逅があり博士課程に進みました。

Q, 最後に、起業後現在にいたるまでの活動状況を教えてください。

2010年、活動領域を広げるために独立。現在は、大手企業を中心とした組織開発のコンサルティングおよび、週に1回大学で「経営戦略論」の教鞭もとっています。また、昨年、カナダのモントリオールで行われたグローバルカンファレンスREFLECTIONS 2017に出席、世界20カ国の参加者に「禅とマネジメント」を発信させていただきました。おかげさまで大きな話題となり、多方面の方々からたいへん多くの称賛を頂戴しました。書籍の執筆も進めてきました。TGS経営大学院で一緒に学んだ片岡裕司さんとの共著『週イチ30分の習慣でよみがえる職場』、2018年5月には『幸福学×経営学』（共著）を出版、両方ともアマゾンで1位を獲得することができました。今後も「これからの経営のあり方」の探求を続け、発信していきたいと思っています。

小森谷 浩志（こもりや ひろし）

多摩大学大学院
経営情報学研究科18期修了
株式会社ENSOU代表、博士（経営学）、
神奈川大学経営学部国際経営学科講師
“生命が喜ぶ経営”をテーマに活動。自覚の方法論として東洋の智慧、特に禅の基本テキスト「十牛図」に着目。マネジメント・コミュニティを中核とした組織開発、個の可能性の開花にアプローチするワークショップを展開している。趣味は瞑想と気功。禅と経営学、一見遠い存在の二つの探求を道楽にしている。

賢者 乾有佳恵

Philosopher Yukae Inui

順風満帆の大手外資系カード会社からの転身。家族と会社経営に奮闘中。TGSで出会った仲間から受けた刺激が背中を押してくれた。

大学卒業後、外資系のクレジットカード会社に入社した乾氏。地元大阪を離れ、東京で社会人生活を始めた乾氏が会社経営に至った経緯をお伺いました。

Q, 前職ではどんな仕事を？

新卒入社した会社は、一年目から先輩方と変わらない仕事内容を任せてもらえるという恵まれた環境でした。オンライン上の広告であるアフィリエイト、サーチエンジン広告、バナー広告などを使い、クレジットカードの新規会員獲得をミッションとしたチームに所属していました。このチームでは、月に何千万の予算を使うことができたと同時に、PDCAサイクルも含め、プロジェクトのプランニングからアクションまで、ほぼすべてを自分で考え、そして実行できるという、私にとっては非常にやりがいを感じられる仕事内容でした。しかし、そんな充実した毎日を数年間過ごしていたある日、「複数の部門にまたがる大きなプロジェクトを担当せよ」という司令が舞い込んできました。このプロジェクトには、これまでの業務で積み上げてきたスキルとは全く異なるスキルが必要でした。

Q, 担当されたプロジェクトでの課題や問題意識は？

一貫した情報を持ち合わせていない多くのスタッフに対し、プロジェクトの概要を説明し意思統一を図る必要性や、彼らに対し具体的な業務を依頼するといった場面が多発しました。このプロジェクトを成功に導くには、誰が見ても聞いても詳細まで分かりやすく伝えること、ノイズやフィルターの影響をうけることなく完全に理解してもらう必要がありました。

Q, どのような経緯で多摩大学大学院（TGS）に？

プロジェクトを担当することになったちょうどその頃、書店で偶然手に取った図解を用いたビジネスコミュニケーションの可能性を提唱する久恒先生の著書を読み、すぐにTGSでの受講を決意しました。「図解コミュニケーション」という授業を履修した結果、図解を用いて論理的に他者へ説明できるようになりました。また、説明能力向上に留まらず、自分の思考の整理にも活用でき、仕事を効果的且つ効率的に進めることができるようになりました。メンバー相互の意思疎通や目標に対するマインドが高い次元で統一され、プロジェクトは順調に推移し、私はマネージャーへ昇格するに至りました。

Q, 順調だったカード会社を飛び出した理由は？

順調ではありましたがその一方で、TGSで共に学んだ仲間が起業し、経営者として活躍している姿に刺激を受けたのが一番の理由です。この頃に、地元大阪で25年以上事業を営んでいる父の会社を意識するようになりました。社会人になってしばらくの間は、会社員としてキャリアアップをしていくことを当たり前のように考えていたのですが、人生100年時代を見据えた時、自分はこれからどのような仕事をしていくのか、していくべきなのかということが頭をよぎり、経営者の立場で携わることに興味が湧いてきました。

Q, 最後に、現在の状況とTGSで得たことをお教えください。

結果として新卒で入社した会社を8年半勤務した後、地元大阪に戻ることを決意しました。現在は、経営者の視点で事業をみつめ、父が築き上げてきたビジネスモデルをこれからさらに発展させるべく、弟とともに日々奮闘、充実した毎日を過ごしているところです。前職の会社と家の往復だけの毎日だったら、大阪に戻ろうとは思わなかったでしょう。TGSでの学びと仲間との出会いが背中を押してくれました。私の人生にとって非常に重要なパラダイムシフトの機会を与えてくれたことに感謝しています。

乾 有佳恵（いぬい ゆかえ）

多摩大学大学院
経営情報学研究科履修
（株）クルーズ・（有）イー・オフィス取締役。大学卒業後、外資系クレジットカード会社に入社し、オンライン広告を用いた新規会員獲得や複数部門間にまたがるプロジェクトに参画。現在は、オフィス事務用品のメーカー会社をファミリーで経営。人事、経理、顧客対応、営業、マーケティングなど、全ての業務に携わる。「目の前に起こる出来事は全て乗り越えられる」を信念に、何事にも前向きにチャレンジしている。

賢者たちの入学のきっかけ

片岡裕司

TGS入学のきっかけは？

先輩に誘われ、何名かの先生の本を読んで。

入学を検討していた頃の悩みや思いは？

キャリアチャレンジに向け、
自信が持ち切れなく踏み切れない。

TGSの学びで改善された点は？

未知の分野に対しても、知識を吸収し、
自分の頭で考える型。

小森谷浩志

TGS入学のきっかけは？

説明会で田坂広志先生の
模擬講義を受けたこと。

入学を検討していた頃の悩みや思いは？

コンサルティングをしている中で
クライアントに本質的に役に立てているのか
疑問があった。

TGSの学びで改善された点は？

アカデミックな学習とコンサルティングの実践、
両輪を回すことで、経営についての
知見を深めることができた。

楠田幸久

TGS入学のきっかけは？

会社業務で生産拠点の中国シフトで悩み、
その答えを得ようとしたのがきっかけ。

入学を検討していた頃の悩みや思いは？

自分が生産拠点のシフトを実行する立場で
ありながら、どうすべきかがわからないという
ジレンマに悩む。

TGSの学びで改善された点は？

会社、日本、世界で起こっていることがわかり、
自分の為すべきことが腹に落ちたこと。
答えは目の前にあったということ。

乾有佳恵

TGS入学のきっかけは？

本屋さんで手にした久恒先生の本。
「図で考える人は仕事ができる」

入学を検討していた頃の悩みや思いは？

論理的に物事を考えられるようになりたい。

TGSの学びで改善された点は？

トピックに対して複数の視点から
捉えることができるようになった。

小林等

TGS入学のきっかけは？

「想い」しかない自分にスキルを
加えていきたいと考えました。
そして、新たなチャレンジをするための準備を
したいと考えTGSへ入学しました。
TGSに決めたキッカケは、
体験講座でした。柏木客員教授の
”クリティカルシンキング”を受講し
TGS入学を決意。単純に先生の話が
腑に落ちると同時に楽しさを実感できた
衝撃的な授業でした。

入学を検討していた頃の悩みや思いは？

大学院の授業についていけるか、
仕事をしながら予習復習はできるのか、
論文を書き上げることはできるのか、
と不安ばかりでした。
その不安を明るい希望に変えてくれたのは、
同期の有志、授業で一緒になった院生、
そして理解ある職場の同僚や
家族の存在が大きいです。

TGSの学びで改善された点は？

TGSのメリットは3つあります。

1 5名～20名の少人数でアウトプット中心型の
授業スタイルであること。
2 実践家の教授陣により、
ナマの情報をキャッチアップできることで
実践型の授業である。
3 海外からの留学生も豊富で、
院生は20代～70代と年代の幅が広い、
仕事の業界や業種も様々で、異能の集団が
集まることで、化学反応が起きること。

多摩大学大学院　経営情報学研究科教授　研究科長
徳岡 晃一郎（ Tokuoka Koichiro ）

人生100年時代が到来しました。リンダグラットンの著書「ライフシフト」によれば、私は50%の確率で90歳まで生きられるそうだ。当然、読者の皆さん、まだバリバリの40代の方は、かなりの確率で100歳を射程に入れられるでしょう。その長い人生をいかに有意義に暮らすか。また、年金が尽きてしまうといわれる未来を見据えると生活費の貯えも必要という現実にどう対処するか。それゆえ、80歳まで現役で、なにがしかの収入を得ながら、社会とのつながりも保ちながら生きていくことが100年ライフを楽しむ秘訣でしょう。その備えとして必要となるのが「知の再武装」。40代の方であれば、あと40年、飯を打っていける力を今のうちに蓄え始めないといけません。今の力をベースにして、どう発展させていくかをきちんと考え始めないと、会社は勝手にあなたの居場所を決めていきます。後進に道を譲りなさいと･･･。それを見越して、次の人生をどう考えるか、それは自分自身でしかありません。そんな場が品川、多摩大大学院なわけです。そしてそこは、次のステップで一緒に励ましあえる人生の貴重な友を得られる場でもあります。修了生の皆さんが、ずっとつながりあい、互いに人生を拓いている姿を見ていると、みなきっと100歳まで頑張ってくれるな、そう思います。

TAMA GRADUATE SCHOOL OF BUSINESS
多摩大学大学院

少人数クラスだから、深く、濃く、丁寧に学べる。
品川駅港南口から1分。仕事を続けながらMBAを取得できます。

多摩大学大学院 品川サテライト

東京都港区港南2-14-14品川インターシティフロント5階
Tel：03-5769-4170（代表） / Fax：03-5769-4173 / E-mail：tgs@tama.ac.jp